

No.120

1998

1月

岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111
振替名古屋 637909

次世紀の美術館

飛驒高山美術館館長 向井 鉄也



飛驒高山美術館は、平成9年4月28日、歴史文化・伝統の地飛驒高山に装飾芸術の美術館として開館しました。

「美はトータルなものである」という私なりの哲学のもと、ガラス工芸と世紀末芸術を中心としたコレクションにつながり、自然のもつ美に対する人間の感性を大切にした建築と庭園、美術館理念を「かたち」にしたデザイン計画を統合し誕生しました。

本館は、16世紀以降の500年を中心とした「世界のガラス500年の展示室」「アール・ヌヴォー、アール・デコのガラスの展示室」より1棟が構成され、別棟では世紀末装飾美術を、グラスゴー派展示室、パリ・ナンシー派展示室、分離派とウイーン工房展示室で構成しています。そして、ガラスの展示室2部屋の中心にルネ・ラリックの噴水ホールを再現しました。

「緻密な展示に緊張して1つの棟を出た時、別の展示は、はるか向こうにある。その間には、左右より自然光が射し込んでいる。目の前には、濃密な世界があり、その中間にはいつでもリラックスできる自然の世界がある。」この緊張と弛緩を体現できる特異な空間を創りました。

また、100坪の企画館を本館右翼に建設し、国内外の芸術を独自の視点で企画、展示してまいります。

「ミュージアム」の語源は、ギリシア語のム

ーサイオンです。ムーサイとは、ミューズの神に仕える人々のことであり、彼らの学習する場所がムーサイオンつまりミュージアムでした。ミューズの神に仕える人々にとって最も重要な学習の目的は、自分たちが、見たことも聞いたこともない世界が或ることを認識することでした。神は、世の中には、自分の知らない物が非常にたくさんあるのだということをもムーサイに知らせて、畏敬の念を起こさせ、神への服従心を生みださせました。

私はこの原語の意味を考え、次世紀に向かう美術館の方向性は、文化とは教養・知識である、干渉するものであるという枠を外し、その非日常性を利用して、文化施設を止揚した創業施設として存在するというベクトルではないかと考えました。

文化施設と商業施設の「^{きわ}際」

「際」というのは、あらゆる世界と別の世界との境目であり、それゆえ「際」はそのいずれの文化にも属さない自由な、もう1つの新しい世界を形成します。イスタンブールは、東洋文化と西洋文化の「際」として発展しました。日常を一步出て、異なった時空間に身をおくことによって新たな文化に入っていくという未知の体験が「際」では可能ではないかと考えられます。飛驒高山は、年間230万人が訪れる観光地であり、その地に立脚する当美術館と致しましては、地域社会に対する文化振興の一助として、「際」を有する空間を形成することがこれからの仕事と考えております。

第22回

東海三県博物館協会
交流研修会に参加して

第1日(平成9年10月2日) 参加75名

講演会テーマ「地球」 講師3人

会場:長良川ハイツ

第2日(平成9年10月3日) 参加44名

視察 岐阜県博物館

かかみがはら航空宇宙博物館

「研修会で大切なことは交流会であり、この機会に、お顔とお名前を知っていただき親交を深めていただきたい。」との挨拶で第22回東海三県博物館協会交流研修会が開催されました。また、来賓からは「誰でも、どこでも、いつでも楽しく学んで、その成果を活用していく。生涯学習体験の中で、博物館への期待は大きい。」との挨拶のあと、「地球」をテーマに3人の講師によるお話を楽しく聞かせていただきました。



<鳥羽水族館長 中村幸昭氏>からは、

宇宙船地球号の人口は、2044年には100億人を突破します。食料とエネルギーが足りなくなったら、人種や国境やイデオロギーや宗教を乗り越えて、平和で仲良くしなければなりません。おびただしい環境破壊が行われて、地球は危ないといわれているのは当たり前のことでしょう。科学技術は進んだが、自然はもっとすごい。今の科学技術で大自然を操るなんてとんでもない。私は動物たちの弁護士として活動したい。ベーリング海の氷に閉じこめられた鯨を、迷子だと書きたがり、大騒ぎをしています。しかし、動物は自分で行動をします。未来を考え、今行動しようということできれば地球の環境を守ることは不可能になっています。

<名古屋市科学館長 樋口敬二氏>は、

「人類は恐竜より賢いか?」とのタイトルでシンポジウムがありました。大きさ10キロの小惑星が衝突したとき、恐竜が減りました。温暖化は実感しにくいものです。温度が2度あがる場合でも場所によって異なります。シベリアにある針葉樹林の地下の永久凍土がなかったら水が全部染み込んでしまい、樹木は倒れて草原になってしまいます。地球の温暖化の引き金を引くのは人間です。人間は恐竜より賢いとはいえません。人間は猿より利口だといいますが、猿は今までと同じスタイルで生活しており、猿の方が賢いのではないのでしょうか。人間の方が猿より賢いと言えるようになることがこれからの課題ではないかと思っています。

<名和昆虫博物館長 名和秀雄氏>は、

蜘蛛は愛すべき動物です。ゴキブリは汚いと言うが、それは台所が汚いのです。チョウチョを採るとかわいそうと言うが、子供たちの好奇心や探求心を奪ってしまいます。アメンボウの水槽に洗剤を入れると、アメンボウは沈んでしまい、アメンボウも住めない水になることを感じる必要があります。ツマグロヒョウモンは今どこにでもいる蝶です。それは食草であるスミレを各地で栽培しているからです。土地の植物を植えていく必要があります。芋虫がきれいなチョウチョになるという感動が必要です。楽しみながら、面白く思っている昆虫に接することが必要です。



3人三様の話しぶりで、果てしない宇宙や遠い未来のことや身近な昆虫のことなど示唆に富んだ話が多く、時のたつことも忘れ話に聞き入っていました。

2日目の見学会では、岐阜県博物館の特別展などを見学し、かかみがはら航空宇宙博物館では館長さん自ら先頭に立って解説やご案内をいただき大変興味深い見学会となり、有意義な2日間の交流研修会でした。

(岐阜県博物館協会事務局 岩田幸作)

74回公開講座

「白山文化博物館設立まで」

期日：平成9年9月21日(日)13:30～16:30

場所：白山文化博物館敷地内

道の駅白鳥・2階和室

講師：若宮多門氏・白石博男氏



第74回公開講座は、平成9年7月18日にオープンしたばかりの、白山文化博物館敷地内道の駅で、白鳥町教育委員会の御協力により開催されました。

最初に教育長 原義昭氏より挨拶をいただき、参加者は、郡上郡文化財保護協会の他60名を超し、長良川のせせらぎの聞こえる和室で大変リラックスした雰囲気の中催されました。

講師の若宮氏は、白山長滝神社40代目の神主であり、若宮修古館長でもあり、またこの白山文化博物館の学芸員として、白石氏と共に開館に向けて大変御苦勞されたとのこと。

若宮氏のお話では、この町の持っている歴史の中に40代目を継承していく意義を強く感じた事、この白鳥町には、白山信仰に関連し、国、県、町の重要文化財が、県内では高山市に次いで第3位と大変多く、これらを広く紹介していく事が地域の人達の心の支えとなり、地域の活性化につながるという理念の基に、地元の人達と共に、白山長滝公園、道の駅、白山文化博物館設立などを中心として昭和63年からの町興しの経過を話して頂きました。

また白石氏は、高校の教師をされた後、白鳥町歴史資料館、ふるさと資料館で勤務され、現在は若宮氏と同じく白山文化博物館学芸員として博物館のオープンに向け御尽力されました。

先生には、白山信仰と長滝、石徹白の興味深い歴史を話していただき、若宮氏と共に館内の展示解説をしていただきました。

(岐阜県博物館協会事務局 古野村美保子)

第38会員研修会報告

東濃地区を例とした新しい博物館活動

期日：平成9年9月24日(水)～25日(木)

場所：蛭川村博石館と館内の各施設

瑞浪市美濃歌舞伎博物館相生座

ミュージアム中仙道

参加：20名

24日は、完成間もない博石館ビールレストラン「バックス」で、事例発表「博石館の最近の取り組みと今後の課題」(博石館館長 岩本哲臣氏)、「博石館の特色づくりをめざして」(博石館リーダー岩井敬光氏)をしていただきました。人を集める博物館は、『買い物する、食べる、体験する、見る、語る』ことが可能な博物館だと考えて、今も次々と新しい手法を計画されていることを述べられました。

その後、「博石館」(博物館)を中心に多面的、多角的に運営されている様子を見学しました。館長さんの案内は裏話を含めた解説や苦勞話が入り、興味深いことが多く、夕方からは、博石館自前のおいしいビールを味わいながら懇親会兼夕食会を持つことができました。

夜は、紅岩山荘で宿泊した9名でささやかな交流会を持つことができました。

25日は瑞浪市へ移動して「美濃歌舞伎博物館相生座」を副館長(学芸員)小栗幸江氏の案内で見学しました。貴重な施設を保存し、管理運営されていることは大変な努力だと感じました。

「ミュージアム中仙道」では、理事長小栗勝氏に事例発表「ミュージアム中仙道の歩みと今後の活動」をしていただきました。美術博物館のあり方と、当館が展示品にモノを言わせるように語りかける展示をめざして来館者に共感をいただけるよう努力していることを語られました。

今回訪問した博物館では、心温まる歓迎をしていただき、研修会参加者として心より感謝しております。また、本研修会では宿泊や懇親会を含めて2日間にわたって行動を共にしたこともあり、参加した者の交流を深めることができたことも大きな成果でした。

(岐阜県博物館協会事務局 鹿野勲次)

館・園紹介 No.101

白山文化博物館

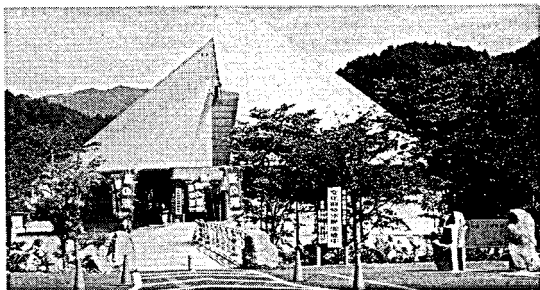
〒501-5104 郡上郡白鳥町長滝402番地
TEL・FAX 0575-85-2663

国道156号線沿い、道の駅「白鳥」に隣接して白山文化博物館があります。

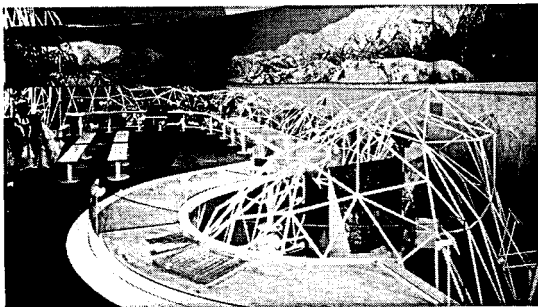
白鳥町長滝は、富士山・立山と並んで古来三名山の一つとされる霊峰白山への登拝口として隆盛をきわめた美濃馬場白山中宮長滝寺があったところです。

白鳥町が、平成元年以来、地域の特色を生かした町づくりの一環として進めた白山文化の里整備事業のシンボル施設が白山文化博物館で、総事業費7億4千万円をかけて、平成9年7月18日にオープンしました。

白山をイメージした三角屋根の建物に向かうスロープには、俗界と聖界を分ける橋が架かり、白山登拝が演出されています。



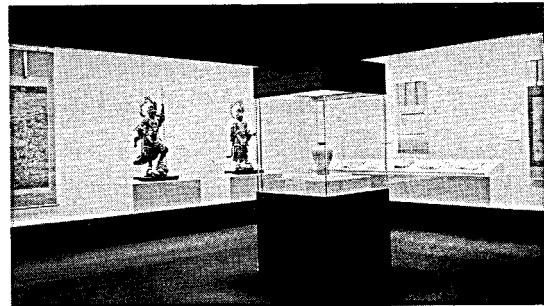
館内は5つの展示室に分かれ、最初のテーマ展示室で、雪をいただく山頂オブジェと壁面の大映像で、白山に登拝したような感動を味わい、「白の世界」「山の世界」「山と里をつなぐ人」「白山への畏敬と感謝」の4テーマ展示を楽しむことができます。



次のインフォメーションプラザでは、フロア

の地図上で美濃馬場白山登拝のルートをたどりながら、加賀馬場・越前馬場をも含め、三馬場ゆかりの場所をパネルで紹介しています。天井には、三馬場からの白山禅定道を描いた水墨画と、長滝白山神社の六日祭で参拝者が人梯子を組んで奪い合う5つの花笠が吊り下げられています。

第3室が、この博物館のメインである文化財展示室です。往年の美濃馬場全盛時を中心に信者によって寄進された多くの宝物は、時代の変遷や度重なる災厄を乗り越えて、長滝寺・長滝白山神社・阿名院の長滝三社寺に、貴重な文化財として数多く残っています。これらの文化財がはじめて一堂に会し、年3回程度展示替えして、順次公開されます。



廊下の「白山神社の分布」の地図と「白山信仰と三馬場」の年表で、白山信仰の全国的な広がりや歴史を概観し、「白鳥町の彫刻」の中の代表的な仏像の写真を展示する白山ギャラリーを通ります。

突き当たりの左側が歴史民俗展示室で、既設の歴史民俗資料館を江戸時代の代表的な百姓一揆である郡上藩宝暦騒動中心に模様替えしたものです。二つしか現存しない傘連判状をはじめ、古文書、史跡写真パネルなどにより、宝暦騒動についての郡上郡内唯一の展示室になっています。

最後のふるさと生活展示室は、麻むし・養蚕・山仕事・機織など、先人の知恵と風土が生み出した庶民の暮らしの道具や様子が実物展示してあり、二階には江戸時代からの民家も移築してあります。

【開館】 午前9時～午後4時30分

【休館日】 火曜日（火曜祝日の場合は翌日）
年末年始

【入館料】 一般500円 小中学生300円
（団体割引あり）

【交通】 長良川鉄道白山長滝駅下車3分
（白山文化博物館 白石博男）